

幼稚園 園まつり製作 年少編

「せんせい、みてみて！」そんな声を聞いて振り返ってみると、子供たちが製作した動物を手にもっていました。園まつりで展示するものが、そろそろ完成してきたのです。



4月からいろいろな素材や道具に親しみながら遊んできました。廃品素材もその一つ。電車やロケット、遠足に使う水筒など、いろいろ作って楽しんできています。その中で、「動物を作りたい」という声が出てきたり、夏休みに動物園に行ったことがきっかけになって9月初めに「動物を作りたい」という声が出てきたりしていました。そんな子供たちの声を聞き、動物のイメージがより豊かになるようにと考え、動物を作って子供たちが触れられるような場所においてみました。すると、子供たちの気持ちに拍車がかかり、「先生、動物を作ろうよ」と、早速作りはじめました。

さて、子供たちがそれぞれにイメージしたものを自分で作っていく楽しさを感じられるためにはどうすればよいか。保育者の間で何度か話し合う機会を持ちながら、クラスごとに環境の工夫をしてみました。

「どんな動物を作るか」を決めるとき、動物の写真や絵を見やすいように掲示したり、選んだ動物の絵を描いて頭の中で考えていたイメージを表現したり、描いた顔の絵や作った動物の輪郭を一緒に飾って見えるようにしたりしました。また、鼻や目、耳などを作る素材などは、手に取りやすいところに置き、いつでも選んでつけてみられるようにしました。製作の過程でも保育者間でどんな言葉をかけているかを紹介合ってきました。

こんな写真やイラストを掲示してみました



素材はこのように置いてあります



子供たちの描いた動物の絵は



絵と動物を
一緒に置きました

こんな動物園もできました

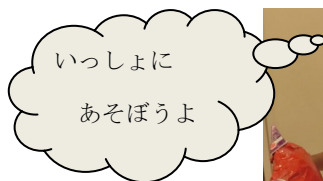
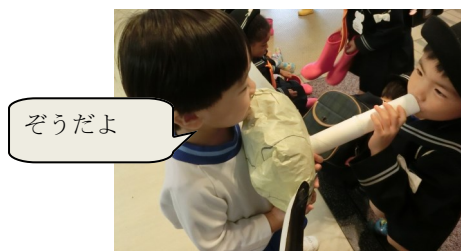


このような取り組みを受けて、子供たちの製作も多様な形で進められました。

顔の土台となる袋を作る包装紙を選ぶときに「この袋かわいい」「きれい」と気に入った素材を選ぶ子もいれば、じっくりと動物の写真や絵を見て、作りたい動物の顔の輪郭に合った袋を探して選ぶ子もいました。目をつけようとしたとき、キラキラときれいに光る素材を選ぶ子もいれば、再度写真を見直して「色は一つじゃない」「ほんとだ、緑とか白とかいろいろあるね」と、特徴に気付いて色々な素材を組み合わせようとする子もいました。

ヒョウを作っている子がトラを作っている友達の様子を見て「トラとヒョウはどう違うか、おうちで見てくるね。」と言って、家にある素材で簡単にモデルを作ってきたこともあります。こうして製作の様子をみていると、美しいものやきれいなものを感性で選んだり、本物に見合った素材を選んだり、作りたいものへの思いを感じることができました。

また、動物たちに親しみを感じ、掲示された絵を持ってその鳴き声を出してみる子や、顔の輪郭となった袋をまるでもう出来上がった動物のように抱いて歩いている子が見られるなど、早い時期から「自分の動物」という愛着を感じるようになってきました。クラスの子が集まって話す機会に「みんなの動物は何食べるのかな?」「一緒に遊んでいいよ」という言葉をかけることで、片手に自分の作った犬を抱え、もう一方の手に絵本を持って「ワンちゃんに読んであげる」という様子などもみられるようになりました。



そんな風にしてたくさん工夫をしたあと出来てきた動物たちは、もうすっかり子供たちの大切な友達です。職員室に突然「みてみて」と走ってきたり、保育室を訪ねていくと「ねえねえ、これみて」と話しかけてきたりする様子は微笑ましく、子供たちの中で膨らんでいる限りなく広い想像の世界が感じられます。

展示をご覧になった時は、子供たちがその動物たちに込めた思いや製作の過程で工夫したことを、そこにつけられた名前などもきっかけにしながら聞いてくださるといいなあとと思っています。どうぞ、お楽しみにしててください。
(年少音楽)

